

栗原市地震防災マップ

地域の危険度マップ 鶯沢地区

宮城県沖地震(連動型)の場合



○この地域の危険度マップは、地域が揺れやすさマップ(宮城県沖地震(連動型))において示された強さ(震度)の揺れとなった場合に、地盤の液状化の影響を含めてどの程度の建物被害(全壊及び半壊相当)が生じるかを100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に表示したものです。

○地震の発生仕方によっては、被害の状況がこれよりも大きくなり、小さくなったりすることがあります。

○宮城県沖地震(連動型)は、1793年に宮城県沖の広い範囲で発生したと考えられ、次の宮城県沖地震でも起きる可能性があると考えられています。マグニチュード 8 を想定しています。

栗駒地区

家具の地震対策も重要です。

■家具の対策

住宅の全壊を免れても、ガラスの飛散やタンス等の大型家具の転倒、テレビや電子レンジ等の家電製品が飛んでくるといった、日常の生活からは想像できない事態によって、思わぬケガをしたり、遺物が落ちて火災に巻き込まれたりすることがあります。新潟県中越地震においても自傷者の約5割はガラスの飛散や家具類の転倒・落下によるケガによるといわれています。

家具や家電製品の地震対策としては、次のようなものが考えられます。

- 固定器具を用いて家具や家電製品を固定する。
- 食器等の収納物が脱落するなどのないよう、棚の調整や固定器具を取り付ける。
- 転倒や落下を招く場所の近くに、家具や家電製品をなるべく置かない。
- いすというよりの遊具の近くに、家具や家電製品をなるべく置かない。
- 大きい家具は滑りやすい床材や畳の上には置かない。
- 家具の足は、下に重いもの、上へ軽いものを置く。
- 古い時代の建築のウォークインクローゼットの扉等の住宅のリフォームを行う。
- ガラス面には飛散防止フィルムを貼る。

○新潟県中越地震のケガの原因
平均年齢 23歳、性別男女別(おける人)を比較する目的で掲載。資料出典: 国土院

地域の危険度マップとは

■地域の危険度マップ

地域の危険度マップは、地震による建築物(木造)被害を、その被害の程度に応じてランク分けした上で、地図に表示したものです。具体的なには「揺れやすさマップ」で示した震度の異なる土地に、地震の発生(震1)の影響を考慮して、全壊(及び全壊相当)の被害を想定される建築物(木造)の割合を「危険度」として示しています。

○地震による死亡・ケガの原因は何？

阪神大震災での死者のうちの約3割は地震直後の家具、建物による圧死といわれています。

○皆さんの生命・財産を守るためには、住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。

○阪神・淡路大震災の死亡原因
出典:「阪神・淡路大震災被害救済事業編」(阪神・淡路大震災調査報告委員会、2003年)

花山地区

鶯沢地区

一迫地区

建物の耐震化が重要です。

■木造住宅の耐震診断

木造住宅の耐震性は、主に3つのチェックポイントがあるとされています。

- 建てられてから、かなりの年月が経っているか(特に昭和56年以前に建てられたものか)。
- 住宅が過去に大きな災害(地震や水害など)を経験したことがあるか。
- 住宅の構造、形、偏って大きな窓がたくさんあるなど、耐震に関わる基本的な住宅の性質に問題がないか。

耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立った症状がなくても、耐震診断を受けることが重要です。次のような項目に心当たりがある住宅は、特に注意です。

- ドアあるいは窓を開けたとき、柱と建具との間に著しい楔長の三角形の隙間がある。
- ドアあるいは窓の建付けが悪く、建具の開閉が変形のために思うようにいかない。
- 窓の隙間が著しく水平を欠いている。
- 建物の壁面が傾斜しているのが、肉眼でもわかる。
- 床面の傾斜が著しく感じる。
- シロアリや成虫(4枚羽根のついでしるあり)が浴室から飛び出す。
- 屋根の棟あるいは軒先が破れている。
- モルタル塗壁に長い斜めのひび割れが入っている。
- 流しや浴室の土台の一部が老朽化している(腐っているなど)。

ブロック塀や石塀の地震対策をしましょう

1978年に発生した宮城県沖地震ではブロック塀の倒壊により11名が犠牲になりました。ブロック塀や石塀の構造は、高さ 鉄筋の配筋※、必要な厚み、必要な処理、基礎の深さなどによって、建築基準法で定められていますが、この基準が守られていないものもあります。また、設置後の年月の経過により雨水がしみこんで鉄筋が錆びるなど劣化が進んでいるものもあります。[*]ブロック塀のみに適用される基準

道路(特に通学路)に面しているブロック塀が倒壊した場合、学童をはじめとする通行人に大きな被害を与える恐れがあります。塀等の工作物の管理責任は所有者にあります。所有者はブロック塀・石塀の安全性の点検を行い、必要に応じて撤去や転倒防止対策を行ってください。

凡例

木造建築物の全半壊率

- 0～3%
- 3～5%
- 5～7%
- 7～10%
- 10～20%
- 20%～30%
- 30%以上

＜＜問い合わせ先＞＞
栗原市 建設部 建築住宅課
TEL 0228-22-1153 FAX 0228-22-0313

1:25,000
0 0.5 1 2 3 4 km

※このマップにおいて、市境東部等、計算上、色の塗られていない箇所があります。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図5000(地図画像)及び数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平野総検、第990号)